

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら本城教室		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 1日		R8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	R8年 3月 1日		R8年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1階を運動スペースとして整備しており、机上での活動だけでなく、身体を使ったさまざまな活動プログラムを行うことができます。	運動に使用する器具の購入や環境の調整を行いながら、活動プログラムのバリエーションを増やし、子どもたちが楽しく取り組めるよう工夫しています。	夏や冬でも快適に活動できるよう空調設備を整えています。今後は、安全面への配慮をさらに高めるとともに、運動器具の種類を増やし、より充実した活動環境づくりを進めていきます。
2	お出かけや買い物などの活動を通して、実際の社会の中で過ごす経験を大切にしています。その中で、その場に応じた約束やルールを学びながら、将来につながる社会性を育てています。	注意が必要なときは一人ひとりに合わせて落ち着いた環境で伝え、良い行動が見られたときはみんなの前でしっかり褒めることを大切にしています。そうすることで、自信を持って行動できるよう支援しています。	1階と2階の環境を活かし、夏祭りなどの行事では場所を変えながら活動を行っています。楽しみながら行動の切り替えや集団での過ごし方を学べるよう工夫しています。
3	職員間で支援の流れを共通理解しており、教室では「自由時間→片付け→活動→帰りの会」といったスケジュールに沿って過ごしています。見通しを持って行動できるようにすることで、スムーズな切り替えにつながるよう支援しています。	児童が集団の中でも安心して意見を伝えられるような環境づくりを大切にしています。「自分も発言できた」「みんなの前で話せた」という成功体験を積み重ねられるよう、日々の関わりの中で意識して支援しています。	今後は、児童一人ひとりの特性や発達段階に応じて、より発言しやすい関わり方や活動内容を工夫し、集団の中での自己表現の機会をさらに広げていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	周囲の地域との交流が少ない	コロナウイルスなどの感染症もあり交流出来ない時期が長かった	地域の清掃や、文化祭、他教室との交流を増やして活動を小集団から中集団や、大集団で行うことも取り入れていく
2	親同士の交流がなく、保護者との情報交換する場がない。	コロナウイルスなどの感染症もあり交流会の開催ができなかった	保護者の親睦会を開き、職員と保護者のつながりや、親同士のつながりをより深いものにしていく。
3	朝からの利用児童が少ない日や、放課後に来所する高学年児童については利用時間が限られるため、宿題を中心とした活動となり、結果として集団活動等への参加時間が短くなる場合がある。	活動内容の工夫が十分でなく、短時間でも充実して取り組めるプログラムの設定が課題となっている。また、児童の特性や利用時間に応じたグループ分けが不十分である。	来年度に向けて、児童の利用ニーズを踏まえた利用日の調整を行い、集団での活動機会を確保しながら支援内容の充実を図る。